

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

自ら学び、自他を大切に、社会に貢献する生徒を育てます

「自ら学び」(知)
「自他を大切に」(徳)と(体)
「社会に貢献する」(公)と(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

【探究】
自ら考え、失敗を恐れずに根気強く取り組む力
【共生】
多様性を理解し、他者を尊重して互いに成長する力

具体化した資質・能力

- 主体性
- メタ認知できる力
- 多様性を尊重する態度
- 思いやり・やさしさ
- 忍耐力
- 協働的に行動する姿勢

中期取組目標

- ・授業や特別活動を通じて、達成感や自己有用感を得られるように取組の充実を図ります。
- ・道徳教育の充実と人権教育の推進を図り、生命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識を育てます。
- ・生徒が一人ひとりの個性を認め合い、互いに高め合おうとする姿勢を育みます。
- ・特別支援教育の充実を図り、生徒一人ひとりの気持ちに寄り添い、生徒への指導・支援に取り組みます。
- ・地域活動に積極的に参加し、地域とのつながりを強めることで、地域社会に貢献できる力を育てます。
- ・地域と連携したキャリア教育の実践により、職業観の育成を図ります。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学習の指導と評価	①生徒が学びの目的に応じた手段を選択できるようICTの活用や授業形態の工夫など、授業の工夫、改善を行う。 ②学習状況調査や学校評価、授業評価アンケートの結果をもとにして、各教科で授業改善を図る。
担当	学習指導部

学力向上に関わる本校の状況

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果
国語は全国の平均正答率と同等、数学は全国の平均正答率より3~4ポイント高い状況がみられた。

	国語	数学
中和田中	58.0	56.0
横浜市	59.0	55.0
神奈川県	59.0	54.0
全国	58.1	52.5

質問紙調査より
PGタブレットなどのICT機器を活用した授業を行い、生徒も主体的に授業に参加できている様子が見られた。しかし、そういった活動が多い中、自分の考えや意見をまとめたり、発表したりする機会が少ないと感じている生徒が多かった。

本校の取組状況
○基礎・基本の定着を図るため、数学科の1年生で少人数の授業を行っている。
○年2回の校内相互授業参観や、小中一貫合同授業研究会を実施し、授業改善を図っている。
○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現を目指し、ICTを活用したり、授業形態を工夫したりしている。
○学習評価について、研修会等とおして研鑽を積んでいる。
○各教科指導と総合の時間等を利用して、ESDを推進している。

今年度の目標

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実とともに、自立した学習者の育成を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
- ICTの活用
 - 授業形態の工夫
 - 指導と評価の一体化
 - 教育課程説明会で学習評価について保護者に説明(4月)
 - 7月に授業評価を実施
 - 9月に校内授業研究会を実施
 - 12月と1月に小中一貫授業研究会を実施
 - 定期テストの作問、採点など学年内、教科内で複数人で点検を実施

- 下半期
- ICTの活用
 - 授業形態の工夫
 - 指導と評価の一体化
 - 12月に授業評価を実施
 - 9月に校内授業研究会を実施
 - 12月と1月に小中一貫授業研究会を実施
 - 定期テストの作問、採点など学年内、教科内で複数人で点検を実施

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①生徒一人ひとりが個性を認め合い、人権を尊重した学びをすすめる。道徳の授業は授業担当者をローテーションして実施し、学校教育全体で人権を意識した活動に取り組む。 ②国際理解や人権作文コンテストへの参加、研修会等を通して生徒や教職員が人権感覚をみがく機会を設ける。
担当	学習指導部

豊かな心に関わる本校の状況

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果より

- (9)自分には、よいところがあると思いますか。
1. 当てはまる … 本校38.1%(全国40.4%)
2. どちらかといえば、当てはまる … 本校45.5%(全国42.9%)
- (12)人が困っているときは、進んで助けていますか。
1. 当てはまる … 本校38.1%(全国38.3%)
2. どちらかといえば、当てはまる … 本校51.1%(全国51.8%)
- (13)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
1. 当てはまる … 本校74.9%(全国77.5%)
2. どちらかといえば、当てはまる … 本校20.8%(全国18.2%)
- (15)人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
1. 当てはまる … 本校70.6%(全国68.6%)
2. どちらかといえば、当てはまる … 本校23.8%(全国26.6%)

今年度の目標

互いに認め合い、助け合い、高め合う心の育成
誰もが安心して生活できる学校の実現

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
- ・各学年でローテーションによる道徳の授業を実施
 - ・毎月の生徒相談アンケートを実施
 - ・各教科指導で互いに認め合い、助け合い、高め合う心の育成
 - ・生徒会活動で互いに認め合い、助け合い、高め合う心の育成
 - ・体育祭、校外行事で互いに認め合い、助け合い、高め合う心の育成
 - ・中和田スタンダードの徹底
- 下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①心身の健康の保持増進のため、新体力テストの結果分析から、個々の体力向上を目的とした運動を設定し、生活習慣の改善を図る。②体育的行事において、体力向上とともに心の健康を含めた広範囲での健康習慣を意識するような活動をめざす。さらに、生徒が主体となった運営を行うようにする。③各地で発生した様々な災害から、災害予防・災害時の身の安全・災害復旧に向けた活動を見直し、より実践的な防災行動につながる取組を図る。
担当	健康教育指導部・保健体育科

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体にかかわる生徒の実態
○各学年男女ともに、身長や体重に関しては全国や横浜市の平均と大きな差はない。

(2)これまでの学校の取組状況
○体育祭や球技大会などの体育的行事における制限がほぼなくなり、活動の範囲が広がってきている。
○小学校時代をコロナ禍の制限下で過ごしてきた生徒にとって、集団活動の経験が不足している。生徒主体で取り組む場面が増やし、経験を積むようにめざしている。
○保健体育科の授業においては、毎回の授業において個々の振り返りを行うとともに、次時の目標を持たせる活動が継続できている。また、新体力テストの結果について個々の生徒に伝え、生徒はこれを受けて自分の取組目標を設定、日々の活動に反映させている。

今年度の目標

健康な生活のために知識や情報を活用できる資質・能力の育成を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
- ・家庭や地域と連携しながら生徒の基本的な生活習慣の確立を図るため、新体力テストの結果を発信する。
 - ・運動能力の多様性の視点を踏まえた保健体育科の授業を推進する。
 - ・体育活動における事故防止の徹底を図る。
 - ・新しい知見に基づいて、体験や経験を伴う実効性のある防災教育を推進する。
 - ・持続可能な部活動の実現を図るため、部活動指導員の活用を進める。
 - ・部活動ガイドラインを遵守し、休養日を確保することで、スポーツ障害を予防する。
 - ・昼食時間に、校内放送を利用して、その日の給食に関する情報を紹介し、食に関する意識を高める。
- 下半期

- ・食に関する自己管理能力を育むため、講師を招いての食育や家庭科における調理実習を通して食に関する指導を進める。
- ・運動能力の多様性の視点を踏まえた保健体育科の授業を推進する。
- ・体育活動における事故防止の徹底を図る。
- ・新しい知見に基づいて、体験や経験を伴う実効性のある防災教育を推進する。
- ・健康に関する意識を高めるとともに、適切な意思決定や行動選択を行えるように薬物防止研修を実施する。
- ・部活動ガイドラインを遵守し、休養日を確保することで、スポーツ障害を予防する。
- ・昼食時間に、校内放送を利用して、その日の給食に関する情報を紹介し、食に関する意識を高める。